

## 総長書簡

### “跣足カルメル在世会の『会憲』 聖座の承認から20年の恵み”

跣足カルメル会在世会の兄弟姉妹の皆さんへ、平和と希望が皆さんにありますように。

わたしたちの歴史において、今も主のみ声を聴き共に歩む家族である世界中の跣足カルメル会在世会の兄弟姉妹の皆さんへ挨拶をお送りすることは、わたしにとって大きな喜びです。皆さんにこの書簡を書く機会となったのは、跣足カルメル在世会の『会憲』20周年にあたり、単に立法上の組織へのテキストとしてではなく、今後も刷新し最新化していくプロジェクトとして『会憲』を理解していくためです。

聖地での創立以来、カルメル会は預言者エリアを<sup>いしずえ</sup>礎とし、聖母マリアのみもとで、主イエス キリストにひたすら付き従う霊性を貫いてきました。カルメル会の霊性の中心は共同体として一致して祈り観想することです。この霊性は、世界各地で世代を通して人々の信仰を霊的に奮い立たせ、神との一致を探究する聖性への小道を歩むよう動機づけていきました。

しかし、それを跣足カルメル会として始めたのは、イエスの聖テレジアの天才的な霊的経験と、彼女と共に、古からカルメルの木に根付いたアイデンティティとカリスマを適応させ、今日のカルメル在世会生活を明確にし、鼓吹した最初の跣足カルメル会司祭十字架の聖ヨハネです。聖テレジアと十字架の聖ヨハネの残した霊的財産とその小道の豊かさは、司祭や修道者のためだけではなく、神を強く体験し神への小道を共同体で歩む人々のためでもあります。

わたしたち修道会家族のカリスマは、創立者たちの明確でよく使いこなされたものだけではなく、創立者たちの経験をより深め、模倣ではない創造的な忠誠心で、彼らを目覚めさせた新鮮さ、リスク、恵みとともに聖霊からのインスピレーションを受け入れて生きることです。

今日、わたしたち信徒、修道女、修道士は、今の時代にわたしたちのカリスマが活性化され、アイデンティティがよく浸透するよう、相互の声に耳を傾けることが強く求められています。

テレジア的霊性を持つカルメルは、教会の生命を豊かにし、キリスト者が神との友情と一致を深め十全に生きることが可能であることを証する偉大な聖人、兄弟姉妹たちがいることを認めています。そして第二バチカン公会議は、『したがって、いかなる身分、地位にあっても、すべてのキリスト信徒が、充実したキリスト教的な生活と申し分のない愛の実践に召されていることは、誰の目にも明らかであり…。』（第二バチカン公会議 教会憲章第40章）と認めています。

世界中のカルメル在世会の皆さんは、わたしにとってこのカリスマの生きた証し人、神のみ前で神の愛と慈しみを証しする人たちです。

今日わたしたちは、カルメルファミリーとして大切な出来事を思い起こします。今から20年前、

2003年6月16日に聖座の“奉献・使徒的生活会省”は、跣足カルメル在世会の『会憲』を詳細に考察した後これを承認し、「各会員にとって、家庭、社会、市民、また、教会生活の具体的状況の中で、洗礼の奉献をますます強化することができるため、まことの効果的な手段となることを希望している。」(Prot. n. C. 228-1/2003 9) との教令を出されました。この教令を通して、教会の母なる聖母マリアは、カルメル在世会会員の召命がまさに聖性への小道であるとされました。

跣足カルメル在世会の『会憲』は、召命を含む要点を表しています。それらは、在世会が教会と世界を愛し奉仕するため、この召命を十分に理解し生きていくよう助けています。『会憲』は、七つの章に分かれています。

1. アイデンティティ、真価、および責務
2. テレジア的カルメル在世会において、イエスに従うこと
3. 神の体験の証し人と兄弟的な交わり
4. 神の御計画への奉仕
5. イエスの母マリアと共に
6. カルメルの学び舎での養成
7. 組織と統治

## 1. アイデンティティ、真価、および責務

カルメル在世会会員は、そのアイデンティティをイエスの聖テレジアとカルメルの霊性において認識しています。彼等が世のただ中であって、自分たちを聖化する召し出しに生きる核心は、『会憲』に「在世会会員は、カルメル山の聖母とイエスの聖テレジアのカルメル会の息子および娘である。」と記載されていることです。このアイデンティティは、彼等のすべての生活状況において保持するもので、キリスト者的、カルメル会員の見解に基づいています。カルメル在世会会員は、霊的インスピレーションを主として、おとめ聖マリア、聖ヨセフ、イエスの聖テレジア、十字架の聖ヨハネ、預言者エリアの生涯と模範に見出し、神と兄弟姉妹との一致のうちに生きるよう召されています。個々の在世会会員は、その約束を通して、自己のアイデンティティを保持し、教会と世界において、祈りとカルメル会との一致と奉仕の生活に召されています。

『ようこそ跣足カルメル在世会へ』の著者、アロイシウス ディーニ神父, OCD. は、本の中で、「この責務で重要な面は、共同体に対する責務です。跣足カルメル在世会の会員になりたい人は、共同体を形成し、共通の目標に捧げられたグループの一部となり、他の会員に関心を示し、祈りの生活の追求を支持し、他者の援助を受けることができなければなりません。」と述べています。このアイデンティティと真価はダイナミックな生きた遺産であり、日々その小道は深められ新たにされていくものです。燃える炎と生ける泉については、日々この火に焼かれ、この泉から飲まない人は、自分が受け継いだ遺産を欺くこととなります。忠実に生きるのは今日ここにおいてです。愛においてわたしたちは、ただ受けるものだけで生きるのではなく、過去のすべての記憶は、わたしたちが今日愛を实践するためのものです。

## II. テレジア的カルメル在世会において、イエスに従うこと

イエスの招きは今も進行中であり、「来て、私に従いなさい。」1（ルカ9：23, 18・22, マタイ16;24、マルコ1；17）カルメル在世会にとって、「キリストは、キリスト者の生活と体験の中心です。カルメル在世会会員は、キリストの教えを受け入れ、キリストに自分を献げることにより、キリストとの一致のうちにキリストに従うことが要求される。」（会憲10）

イエスとの愛に生きるとは、その御言葉を聴き、キリストと日ごとに親密になって成長し、キリストの望みと意思を自分のものとし、愛された使徒のようにキリストの胸の鼓動に耳を澄ますことです。カルメル在世会会員は、神の体験を他者と分かち合い、復活され生きておられるキリストを証しすることができます。それによって、キリストに信頼をよせる人たちの生活に変革をもたらし、彼らはキリストに見つめられ愛されるようになっていきます。

## III. 神の体験の証し人と兄弟的な交わり

わたしたちは、「全世界に行って、すべての創られたものに福音を宣べ伝える。」（マルコ16;15）ために召されています。イエスはわたしたちを「神は愛である」（1ヨハネ4;16）ことを告げ知らせるために派遣されました。福音には希望があり、わたしたちには同伴される神がおられ、時が満ちるとわたしたちを限りなく愛され、「神はご自分の御子をお遣わしになりました。」（ガラテア4;4）わたしたちは、神が与えられたことを伝えるのに恐れる必要はありません。我々は、神が我々に与えられたことを伝える不安を取り去る必要があります。最初の弟子たちは、学位などなく、彼らの学舎はイエスと共に生きることであり、イエスの過ぎ越しを見届け、聖母マリアと共に聖霊降臨を経験することにより霊的変容をとげました。個々の弟子たちは、受けた賜物と弱さとともに、世界におけるイエスの啓示の中で変えられていきました。

わたしたちも、神の愛が変容と癒しをもたらすことを世界に告げ知らせに出かけるために、個人的な経験において、神の愛を証しする恵みを世界に勇氣と単純さで伝えるよう、前もって託されています。それはただ言葉だけよりも、自分の生活を通して沈黙と観想から湧き出る言葉を通して宣べ伝えるのです。それには祈りの生活を心にとどめ、日々育成していくことが重要です。「それは、神とともにいる時であり、また神との関係を深める時である。こうして、世において神の現存の真の証し人となる。」（『会憲』21）祈り、観想、兄弟姉妹愛、使徒的生活を通して、カルメル在世会会員はイエス キリストとの友情を証し、最初のミッションである真の祈りの共同体を具現化し、活動を進めていく宣教師です。

「カルメル在世会の地域共同体は、キリストと聖霊のうちに神との交わりを、またテレジアのカリスマに従って他の兄弟姉妹との交わりを個人的にも共同体的にも生き、促進する場である。」（『会憲』24a）これが、わたしたちに託されたことを生きる最初のミッションと使徒職であると認めます。

多くの言葉やスピーチ、長い再会のやりとり、焦点の無い論争、観念的なことに費やす時間、前もって計画されたアプローチの説明などではなく、わたしたちは自己防御なしで神のみ旨に謙遜に心を開き耳を傾け、沈黙から湧き出る霊的読書や自分の生活の刷新と真実探究

に専念しましょう。カルメル会は、安心させるアイデアやすでにある教義の学校ではなく、聖霊から生じた神の経験と感謝、創造性と熱心さを養育する学校です。わたしたちが、真理を求めて無の境地で主に向かい、主のみ旨を理解したいと望むならば、わたしたちが想像しないところに真理の小道が示されます。聖ヨハネ パウロ二世は「アイデアは、押し付けられるのではなく、提案されます。」と述べられました。(2003年5月3日“青年との集会”マドリッドのクアトロ ビエントス空軍基地にて) わたしたちは、押し付けられずに、思いを恐れることなく話し、信頼の関係を創り、傷ついたところを閉ざすことなく、真摯に聴き、そして沈黙を分かち合う対話を創り出していきましょう。

#### IV. 神の御計画への奉仕

カルメル在世会会員の召命は、宣教者の側面をもっています。そして神との友情の関係から、その経験をカルメル会や教会、そして世界に分かち合うことを望んでいます。「在世会の召命は真に教会的なものである。」(『会憲』26) この目的のために、教会への奉仕は召命の基本的な部分となっています。イエスの聖テレジアは、跣足カルメル修道会をまさに彼女自身のおかれた当時の状況において、教会を助け再建するために創立しました。カルメル在世会会員は、自分たちの共同体がおかれた地方教区での奉仕を特に注視しています。会員たちは、その司教や信徒と繋がりをもっています。会員たちは、どこにいてもカルメルのカリスマをもたらします。

『Orden Seglar del Carmelo Deacalzo : Constituciones y Comentario』の著者、ペドロズビエタ神父, OCD. は、「カルメル在世会の信徒会員は、世にあつて福音的聖性に生き、適切な手段によって人々と生活する。結婚では愛の家庭生活、必要とする物を福音的感觉で用いること、信徒として家庭と社会で神に信頼し生活の課題や努力すべきこと、困難に対処していくことが大切である。そして、世界宣教年のときのように世界を内面から変容していくことが求められる。」(2003年, 56-57)と述べています。

カルメル在世会の一員としての認識と会員養成は、祈りと使徒的奉仕に従事する力と意欲を与え(決意した決心)をうながします。 わたしは、皆さんをカルメルの霊性の伝達に創造的に取り組むよう招きます。わたしたちは、修道者及び信徒として多くの機会を持っているものを分かち合い、互いに協力できます。自分たちが控え目でないことを恐れてはなりません。信徒は修道者の侍者ではなく、皆さんは、成熟したカリスマの担い手であり、有能な証し人、聖霊に謙遜と従順を表し、新たな率先力でカルメルの霊性を再現し、未熟な横柄さや不器用な自己満足なしに、わたしたちが輝くよう与えられたカリスマで繋がっています。わたしたちに現存するカリスマに翼が与えられ、わたしたちの兄弟姉妹の中で聖霊が働くことが理解できるよう助け合いましょう。わたしたちは恐れずに、提案し、聞き、時として危険を冒し、修正すべきところを認め、成長していきましょう。わたしたちは、自分のことを言い伝えるものではありません。

#### V. イエスの母マリアと共に

カルメル修道会はその起源以来、カルメル山の聖母の名称で知られ、聖母マリアの愛のみ姿をいただいています。カルメル会に現存する最初の教会は“カルメル山のおとめマリアの兄弟会”に奉獻され、これがカルメル修道会の正式名称になっています。おとめマリアは、カルメル在世会に同伴され、「おとめマリアは特別な形で現存される。とりわけ主に聴き従い、主とその他の人々に奉仕する忠実さの模範として存在する。」（『会憲』4）それゆえ、カルメル在世会の召命は、おとめマリアの現存無くしては理解されません。彼女は、会員を守り世話し、導く師、勇気づけ教え、共同体に同伴してインスピレーションを与える姉妹であり友です。

マリアは、わたしたちの生活でそれぞれの場に現存されます。最初のカルメル会士に初めてインスピレーションを与えたマリアの肖像は、ご胎内での神の神秘を抱いて、従妹のエリザベトを手助けするために向かわせた、ご訪問のマリアでした。カルメル在世会会員は、マリアのように

出来事をすべて心に納めて思いめぐらす観想的な“信仰の巡礼者”です。（ルカ 2:29）そして神はわたしたちの生活の中で、お望みのときと、適切な場面と出来事において啓示されます。わたしたちも、歴史における今、マリアのようにも、この地上に神の国を建設する望みを抱いて神への小道を見つけ、み声を聴き、生きておられる神に出会うよう望んでいます。

わたしは在世会の皆さんすべてをこのときに、わたしたちの生活の中でマリアの現存を再発見するよう招きます。そしてわたしたちが、カルメル会のマリア的靈性を刷新し、彼女の奉獻を宣べ伝え、マリア神学を明確に創造的により深め、ともに家族のプロジェクトや子供たちの尊厳を擁護するために活動できるよう願います。カルメル会が新たにされるよう、マリアに戻りましょう。彼女がわたしたちの生活を照らし、日々彼女の御子の子どもとなっていくよう、カルメル会でマリア的經驗を刷新するよう、どうか助けてください。

## VI. カルメルの学び舎での養成

わたしたちには、世界にイエスの現存を知らせ、イエスとの友情の經驗をすべての人々と分かち合うために、真の祈りの生活と包括的な（人間的、靈的、心理的）養成が求められています。カルメル在世会での養成には、本質的かつ必要な側面があります。「在世会における養成の課程の中心的な目的は、キリストに従っていくことにおいて、カルメルのカリスマと靈性を生き、その使命の奉仕に人を準備することである。」（『会憲』32）カルメル在世会の多様な時期での養成は、会員が、自己のアイデンティティと召命を深め、教会と世界に奉仕していくために助けとなります。養成の基本的に重要な側面は、人間的、キリスト教的、カルメル的であることです。それらを通して、カルメル在世会員は、自分がキリストの真の弟子であるように、在世会や教会そして世界で兄弟姉妹に奉仕するように準備していきます。養成の初めの当事者は、聖靈のインスピレーションに応えるため共同体からの助けを受けている会員です。養成は終るというものではありません。わたしたちは、謙遜な態度で互いに教え合い、成長し、信頼できる成熟した従順で、兄弟たちと教会の声を注意深く聴きましょう。

時として、わたしたちはテレジア的靈性に一致しない、自己充動的、あるいは真理を自己流に信じている態度を目にします。聖テレジアは生涯、意見の反応と教えを受け入れ、自分が真理

の保持者であると信じないで、毎日光を求め聖霊に祈っていました。既にその小道を歩き、その真理を掴んだ原理主義者のようにならないで、日々本質的なことの見習い者として、これらのことから多くを学び発見することを喜ぶ人になりましょう。

## VII. 組織と統治

在世会は世界の 95 か国に存在しています。法的には、在世会がある跣足カルメル修道会の管轄地に属し、共同体で「会長と 3 名の顧問および養成責任者で構成される顧問会は、共同体の直接の権威となる。」（『会憲』46）法律上の長上は、跣足カルメル修道会総長と修道会の管轄地の代表者です。在世会は、その地にある他の OCDS と、カルメルファミリーの修道士や修道女と通じ合い、この三つの枝が一つのファミリーを形成している兄弟的一致を証します。

(Declaration of the Teresian Carmelite Charism, nn. 43-44 参照)

修道会ファミリー、修道者と宣教精神に固有であるのは、地位を欲しがらず、権力ある地位を得るために努力しないことです。また、わたしは共同体を治めるのにふさわしい唯一の人物である、と考えるのも適切な態度ではありません。わたしはこの地位を交代する時が来たら、喜んで迎え、党派を作るグループや会話を支持しません。カルメルのこの時期に、わたしは皆さんに、一致をもたらさず、共同体での一致のダイナミックを養わないものはすべて除去するよう要求します。そうしなければ共同体での学びは傷つき、割れ目は分裂を生じます。神を真に経験することは、あなたを共同体形成に向かわせます。教皇フランシスコは、“霊的な特性は、自己肯定と自分を絶対に必要視する症候群が現れると、共同体の自己熱意に変装する。”述べておられます。自由に健全な環境を求め創り出すために奉仕しましょう。

### カルメル修道会、教会、世界のために

カルメル在世会の『会憲』は、在世会会員のためだけではなく、カルメル修道会と教会そして世界のために承認されました。テレジア的カルメルのカリスマは、神から与えられた贈り物であり、カルメル在世会に属する者だけでなく、カルメル修道会と教会そして世界のためです。カルメル在世会の会員は、福音のよき知らせを宣べ伝え、その祈りの生活と使徒的奉仕を通して、自己のカリスマとアイデンティティを全世界の人々に分かち合います。跣足カルメル在世会は、この家族の一員になるよう召されていると思う多くの男女の関心を、これからも引き寄せ、聖テレジアが述べた「ますます良くなって行くように…。」（『創立史』29:32）自分たちの信仰に忠実に生きる道を求めていきます。

このカルメルの実りの豊かさは、わたしとすべてのカルメル全体にとって大きな喜びです。わたしは、カルメル在世会のどの共同体を訪れるも時も、熱意と緊張、そしてカルメルに属している喜びと活気で満たされます。

わたしはいつも主が、皆さんの召命、熱心さ、主イエスとの友情、祈りと共同体生活、教会と世界への愛と奉仕、そして海の星であるおとめ聖マリアと聖ヨセフとの親密な友情を祝福してください。尊き主イエス キリスト、皆さんの生活における栄光の神において、こころから願っています。

この『会憲』のために尽力された皆さん、日々会憲に生きている皆さん、そして将来入会される皆さんに感謝します。わたしはカルメル在世会の各共同体のために祈ります。わたしたちが今まで受けてきた尊い遺産に感謝し、与えられた今日をより良くなって行く新たな日の始まりにしていきたいと思います。

兄弟 ミゲル マルケス カッレ, OCD  
跣足カルメル修道会 総長

2023年8月15日